

電子複写不可

南大東島

歩兵第三十六聯隊

第一大隊長

原寿満夫日誌

第二卷

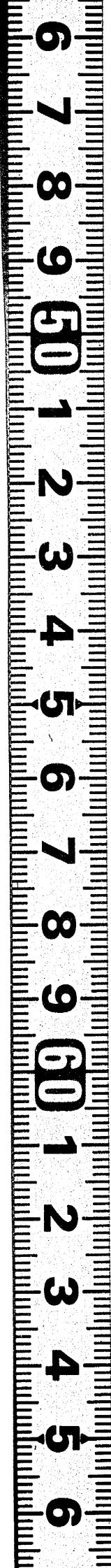
自昭十九、十二、一

至昭二十、五、十六

防衛研修所戦史室



708



日

記

自昭和
至昭和
年
年
月
月
日
日

北津山田園下ノ鬼船ノ向ラ度ニ揚リ
旅(元)好ニ揚後同ノ後村ニ対スル
お守・果ノ本ガ後慮短見ナリ
我ら慢也

二日土曜

宏量ス
祖シ来求東スベキニ奇夢アリ
ハカス又優柔不断アリ
鬼量ヲ犠牲トスベカラス

新田新田新田新田

船回入港ス少候事ナリ帰路シ
船隊ニ新威カヲ加エテ
新田少尉 伊余隊ニ岩櫃見士
船中ノ走々決定セラル
夜更ニ伊余隊来リテ語ル
中村生後寺ヨリ傳リ元氣ナリ
致意 宗ヨリモ又傳アリ

三日日曜

終日悪天候ニテ何場ニ困難由氏引
揚を決定セズ
朝食古希少尉 山口・柴田見習士官ノ

會食ヲ行フ 健斗ヲ新ニ皆印ナルニ
アリ

久食者大所長 副官集リテ 御所長及
前官の懇話会ヲ行フ。 会中 諸君ハ
本意ニ何モ恥ハルニ留ルモナリ 又ハ 心ニ底ニテ
打胸ヤルルニナリ。 余ガ平素ニ 懇話ニ於テ
言ハルニ 修養ノ道ヲ示シテ 深ク 感ゼ
ズ。 昔年及者ヨリ 大ニ 協同 此ノ真
ニシ。

慶云の致部 ありあがる 衆人
健やあつた と 祈 言ハル
先ト高野政隊ノ勇士ハ 台湾朝鮮ハ

特別志願兵多ク 致部ノ人益々ニ 白放送セシ
致部多ク 幸ナラズ
吾ニ亦 皇軍ニ 義士
特別志願兵 多ク 越ス

四日 日曜

天候恢復 一碧ノ大空ニ 心ヲ
晴ラシムル 誠ニ 地良シ
深谷中ニ 致部ヲ 訪ヒテ 種々 談話
多ク 割見ニ 此ノ 固 協同 友ニ
訪ネテ 懇話 広ク 知識ヲ 示メ 修養
入路ヲ 辨シテ 肝要ナリ

若原伊藤博士の著書「配備研究」
友伊藤博士の自傳小説「視」
道遠の著書「吾人の努力」著者多し
ヲ思フヤ切ナリ

飯村内下、前系ヲ著スル、
新切ナリ、才道ニ歸シ、忠一、
志一、
知レ、未節ニ相ル、
近道ニ止リ

七日木曜

午前、雜事ニ追ヒ、昼食、
各方院長集
ニ打合、懇談ヲ行フ

午後、本多橋地区の人決定、
後新聞并
讀シ、社黨、會根ナリ、
大西再中ナリ
甚シ...

レイナ島我高依並堤池ナリ、
現高々徳
特別攻撃隊、空挺備教ナリ、
其徒ナリ
新山、最切ナル、
豈吾一人ニナランヤ

元氣の昔思ハシ、
若も若も、
分ちまなく、
唯、大君のため

茲に多量の優り、
心何処ニ
待テ同胞の心何処ニ

九日 土曜

有馬隊村松止井兵衛告別式参列

又一人参列し、此の島に

あはれ歎き、此の島に

彼の系並に、此の島に

津島梅屋敷の見し

防備をたゞし、此の島に

指導をたゞし、此の島に

行幸、感激を懐く

十日 日曜

身保箱、乱る力

十一日 月曜

幹部教育計画、其の他

本日より、電燈の減り

生活

十二日 火曜

又、状況開始、基本

午后十四時より地獄谷演習開始。天候
陰鬱。十二時（？） 谷内、松樹より見廻り
夕刻より散来る。種々、中絶。承止。
雨激し。途中一時中絶中止。返り
再考。概不五時。配備完了。初一
才出現久。ヤリ。遺習。均次。松
、香茶。又松。才。中。均。才。

一昨年来月本日
天皇陛下畏是。御覽。御覽。御覽。
御覽。御覽。御覽。御覽。御覽。御覽。
御覽。御覽。御覽。御覽。御覽。御覽。
御覽。御覽。御覽。御覽。御覽。御覽。

元、決意。御覽。御覽。

十三日水曜。

晴。演習。配備。変更。五時完了。
演習。三時。向。半。時。夜。交通。演習。
仲。三。時。難。訓練。三。時。配備。出現。
〇七。〇。前後。地位。中心。
演習。才。操。才。
老。華。門。巨。領。七。道。年。記念。日。才。七。二。才。
才。七。才。半。才。伊。第。大。尉。光。華。南。附。世。才。
才。三。才。才。演。習。才。七。才。先。輩。才。遺。烈。
才。愧。才。